

未就園児と支援について

坪井 仲治 (みどり21)



保育園や幼稚園、認定こども園に通っていないゼロ歳児から5歳児の未就園児が全国的に増加している。未就園児の中には虐待が隠れている場合もある。また、他者との関わりが少ないために、暴力やネグレクトがあっても表面化しづらいのが現状であることから、未就園児の実態とその対策について質問した。

◎ 菊川市の未就園児の実態は。

◎ 菊川市の未就園児の実態は、令和4年11月1日現在のゼロ歳から5歳児は2540名で、このうち市で把握する保育園等の利用者は1753名である。当該人口から利用者を差し引くと、787名の未就園児がいることになるが、この中には認可外保育所等の入所者が含まれ、正確な人数の把握は難しい状況である。

◎ 子育て世代包括支援センターの利用状況等は。

◎ 昨年度の子育て世代包括支援センターの対応状況は、電話

相談が272件、訪問が52件で、主な相談内容は、出産準備、出産・育児に対する不安、各種手続等であった。令和6年度に設置予定のこども家庭センターには、子育て世代包括支援センターと家庭児童相談室の機能を併せ持つよう求められている。

◎ 定住人口を増加するためには受入れ体制を整える必要があるが、子育てに関する菊川市の考え方は。

◎ 菊川市で家庭を持ち、子どもを産み育てることができるよう、出生数や教育・保育ニーズを的確に推計し、ソフト・ハード両面から受入れ体制を整えていく。



带状疱疹ワクチン接種の必要性について

織部 ひとみ (みどり21)



コロナ禍において健康であり続けるには感染予防や健康的な生活環境が大事であると感じている。誰もが幸せに暮らせるため健康であることは大きな要因であるため、病になってから治療するのではなく、病を未然に防ぐという観点から、带状疱疹ワクチン接種の必要性について伺う。

◎ 带状疱疹を未然に防ぐため菊川市ではワクチン接種についてどう考えているか。

◎ 带状疱疹ワクチン接種を行うことで、発症率が低減され、重症化を予防するとともに神経痛等の合併症の予防に有効なワクチンであると考えている。

◎ 発症予防効果があるとされている带状疱疹ワクチン接種について菊川市の周知と接種推進の取り組みは。

◎ 菊川市において带状疱疹ワクチンに特化した周知や接種勧奨は行っていませんが、テレビコマーシャル等の啓蒙活動が行

われていることもあり、市民からワクチン接種や費用助成の問合せが来ている。関心が高まっていくことが考えられ、必要な情報を提供していく。

◎ 菊川市の带状疱疹ワクチン接種の助成の考え方は。

◎ 予防接種法に基づいて国が接種を推奨している定期接種ではないため自己負担となる。現在、国の厚生科学審議会が定期接種化の議論中であることから、今後の動向に注視し、研究していく。

